

# 即興型ディベート

## 研究報告集

*Research Report of PDA Conferences*

オンライン開催

2024年8月2日（金）



一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

*Parliamentary Debate Personnel Development Association (PDA)*

# 目次

【即興型ディベート研究報告集】

はじめに ～「論理・表現」3年目、即興型英語ディベートの活用～  
大阪公立大学／一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 中川智皓

No.1 長野県長野高等学校即興型ディベート研究報告書  
長野県長野高等学校 杉山 大地 教諭

## はじめに

### ～「論理・表現」3年目、即興型英語ディベートの活用～

大阪公立大学 工学研究科 中川智皓

(一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事)

今年度で11回目となる夏合宿は、昨年を引き続き、オンラインでの開催です。今年度は、中学生と高校生を完全に分け、それぞれ別の日で設定しています。高等学校では、英語科での新科目「論理・表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」が始まり、3年目となりました。文部科学省学習指導要領には、当該科目においての活動の一つとして、ディベートが明記されています。PDAでの体験会や合宿、大会で取り扱っている即興型英語ディベートは50分(1単位)で完結する形式で設計されており、上記授業においても活用されている学校があります。教育委員会や各地域での英語部会における教員研修にも本PDAのフォーマットが取り入れられています。ゲームの特性を活かした本ディベートの実践形式は、ルールに基づいて、議論がかみ合いやすい工夫がなされています。補助教材であるスピーチシートやそれに対応するフローシートなど、ルールに従うことでコミュニケーションが図りやすい形となります。

また、「論理・表現」の科目にも示されるようこれからは英語力のみではなく、“英語力+内容”を評価する時代になると考えられます。PDAでは、英語力に加え、内容を評価するパラメンタリーディベート検定<sup>®</sup>(PD検定<sup>®</sup>)を実施しています。PD検定<sup>®</sup>では、実際にディベートの実践を行い、内容と表現の両面からスコアが導出されます。スコアに応じたPDレベルを設定しています。PDレベルは論理的表現力となりますが、言語運用動力であるCEFRとの対応も参考に示しています。さらに、スコアやPDレベルの結果表示に終わるのではなく、今後の学習につながるよう、スピーチのよかった点・改善点をコメントしています。普段の学習の成果を測る一つの指標また今後の学習アドバイスとして、広く活用されることを願っています。

最後に、PDAではAIディベートシステムを開発しています。ディベートの要素であるAREA(主張、理由、例、主張)の基本的な練習や、ディベートスピーチを行い、自動生成される反論、フィードバックで効率的な学習ができます。日々発展する技術を取り入れながら、教員の負担を低減させることは重要です。同時に、AIの特性や限界も理解し、生身の人間だからこそ得られるコミュニケーションも大切にしながら即興型英語ディベートを推進していきます。

謝辞 公益財団法人 KDDI 財団、一般財団法人 三菱みらい育成財団、文部科学省、大阪公立大学ほか、多くのご支援をいただきました。ここに感謝の意を表します。

※ここでは、パラメンタリーディベートを通常授業(50分)に導入できる形式にアレンジしたものを、なじみやすい・理解しやすい表現として、即興型英語ディベートと呼んでいます。

日本の一般的な生徒が実施できる形式に、「システム」として落とし込んだ点が特長です。ルールやスピーチシートをはじめとする考案したシステムは、単に一般的なパラメンタリーディベートを簡素化したという位置づけではなく、議論の仕組みを整理し、教育的効果を高めるためのデザインが組み込まれています[1]。[1] 中川智皓、山内克哉、新谷篤彦、パラメンタリーディベート(即興型英語ディベート)における議論の整理と評価の一考察、システム制御情報学会誌、Vol.32, No.12, (2019), pp.446-454.

## 即興型ディベート研究報告集

杉山 大地  
長野県長野高等学校

### (1)はじめに

本校では主に自由選択の学校設定科目において、即興型ディベートに取り組んでいる。

### (2)実践内容

上述のとおり、学校設定科目である「英語ディベート」において、即興型ディベートを行っている。「英語ディベート」は1、2年生対象の自由選択の授業であり、放課後に活動を行っている。英語部に所属する生徒が、この授業を選択することになっている。活動は基本的に生徒主体で行い、PDAの大会が開催される時期に合わせて集中的に即興型ディベートの練習に取り組んでいる。毎回の流れは、下記の通りである。(1) 論題の決定(生徒) → (2) 準備時間 → (3) ディベート (4) 振り返り 「振り返り」は、肯定側と否定側が一緒に行い、お互いの主張やそれについての理由・具体例、反論などを再度確認し合い、改善点を中心に話し合う。授業としては55分の設定だが、先述のように部活動とも合わせて行うため、1回の活動において、3個程度の論題について、チーム編成を変えながら行っている。立論や反論などのディベートの方法については、主に2年生部員が1年生部員に教えるというかたちで行われている。

### (3)まとめ

本校における即興型ディベートの取り組みは、自由選択科目として部活動とも合わせて実施している。また、必修の学校設定科目である「英語キャリアプロジェクト」においてもALT主導で、即興型ディベートを扱う予定である。しかしながら、「英語コミュニケーション」や「論理・表現」の授業においては、まだ導入をできていない状況である。生徒の「知識・技能」の育成のみならず、「思考・判断・表現」力を養成していくためにも、今後は実践の幅をさらに拡大していくことも必要になってくると思われる。

---

即興型ディベート研究報告集 PDA24-1

発行日 2024年8月2日

発行所 一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

大阪府堺市中区学園町1-1 大阪公立大学 工学研究科 機械工学分野 中川研究室内